

## 「山形大学生海外派遣プログラム実施報告書」

氏 名：大宮司 光月  
所 属：人文学部 人間文化学科 2年  
派遣大学：インドネシア ガジャマダ大学  
派遣期間：2015年8月23日～9月4日



### ○日本語教室での活動内容

ガジャマダ大学での日本語教室は、平日の間に1日2回行いました。1回90分の授業で、毎回20～30人ほどの学生が授業に参加してくれました。学生の日本語レベルにはバラつきがあり、ひらがな・カタカナから勉強する学生もいれば、日本語での会話が普通に出来る学生もいました。初めは全体でひらがな・カタカナ・物の名前・自己紹介などの簡単な日本語教えていましたが、教える側の人数が増えた後はビギナーとアドバンスにクラスを分けて授業を行いました。ビギナークラスでは主に日本語の簡単な単語や文章を教えて、アドバンスクラスでは学生にやりたいことを聞き、その内容に沿って授業をしました。また学生は日本の文化・テレビ・アニメ・音楽などに興味を持っている人が多かったため、日本についての授業をしたときはとても楽しそうでした。ガジャマダ大学の学生は分からないことはすぐに質問してくれるので、勉強に対する意識がとても高いと感じました。

### ○目的についての成果

このプログラムには、自分自身や日本人としての知覚力・相手や異文化への理解力・臨機応変に創意工夫できる適応力・英語力を含めたコミュニケーション能力のスキルを身につけるといった目的がありました。実際に現地に行き異文化に触れることで、日本では出来なかった経験をしてきました。現地での生活を振り返ると、この4つの目的は達成できたのではないかと思います。異文化に触れて異文化を知るのはとても楽しいもので、インドネシアで過ごした日々は充実していました。

そして授業では特に臨機応変に創意工夫できる適応力とコミュニケーション能力が求められます。様々なレベルの学生に対してどんな授業をするのか、どうしたら学生に楽しんでもらえる授業になるのかを考えることが現地での大きな課題でした。

また現地の学生と一緒に過ごしているうちに、自分が日本人であることを実感すると同時に、日本語や日本についての自分の知識が少ないことを理解しました。聞かれたことに自信を持って答えられないもどかしさを感じる場面が多々ありました。日本語が話せるだけでは日本人とは言えないと感じました。

### ○プログラムに参加した感想

このプログラムは自分の力でやらなくてはならないことが多いものだったと思います。自分で航空券を取り、一人で海外へ行くことに初めは不安な気持ちばかりでした。しかし実際に現地に行ってから、学生が常に一緒にいてくれたため不安なことは何もありませんでした。

日本語の授業についても、何を教えたら良いのか、自分の英語力でちゃんと伝わるのかなど心配なことがたくさんありましたが、ガジヤマダ大学の学生は真剣に授業を受けてくれたのでとてもやりやすかったです。学生はみんなとても親切で、英語もすごく上手でした。私が困っていることがあるといつも助けてくれてうれしかったです。初めの何日かの授業は私一人だったため、少し授業を行うのが大変でした。そうしたらガジヤマダ大学の学生の一人が日本人の留学生を紹介してくれました。彼らは自分の授業がないときは、私たちの日本語の授業を手伝ってくれました。実際に留学生として来ている人たちなので、英語力もコミュニケーション力もあり、参考になることが多くとても助かりました。インドネシアに行って日本の他の大学の人と出会い、一緒に授業をできたことは面白かったです。

日本語クラスの生徒の中には、日本語での会話がスムーズにできる人が何人かいました。母国語だけでなく、英語、日本語も堪能なガジヤマダ大学の学生の能力の高さを実感しました。また彼らは大学で日本語を専攻している人たちではありません。自分が日本に興味があって、日本語を学びたいからという理由で勉強しています。彼らの勉強に対する意識の高さを見習おうと思いました。

休日も学生が色々な場所に連れていってくれました。そのため現地での生活は、とても充実していて楽しかったです。みんな本当に親切で優しい人ばかりで、素晴らしい体験ができた二週間でした。またいつか彼らに会いに行きたいです。

### ○今後の展望

今回のプログラムに参加したことで、自分の英会話能力の未熟さを実感しました。正しい英語ではなくても伝わりますが、もっと上手に伝えたいのに伝えられないという場面が多々ありました。そのため今後は自分の語学力の向上を目標としていきたいです。またガジヤマダ大学の学生の勉強に対する意識の高さを見習い、今後の大学生活を過ごしていきたいです。

